

令和4年度
上野法律ビジネス専門学校
学校関係者評価委員会結果報告書

令和 5 年 6 月 30 日

学校法人上野教育学園
上野法律ビジネス専門学校
理事長 久保田 高永

令和 4 年度学校関係者評価報告

学校法人上野法律学園上野法律ビジネス専門学校では、本校規程に基づき、学校関係者評価委員会を令和 5 年 6 月 22 日に開催いたしました。以下に、その内容をご報告いたします。

今後教職員一同は、各評価委員よりのご意見等を踏まえまして、教職員一同は更なる専教育内容の向上及び適正な学校運営の確保に努めていく所存でございます。

引き続き、一層のご支援、ご協力を宜しくお願いいたします。

1. 学校関係者評価委員名簿および学内出席者

氏名	所属	役職等
土川 英司	盛岡市材木町商店街振興組材木町青友会	会長
安藤 貴弘	株式会社東北銀行	夕顔瀬支店長
清水 友博	盛岡市役所（本校卒業生）	市長公室企画調整課都市戦略室
野中 美優	社会福祉法人 手をつなぐ（本校卒業生）	手をつなぐ安心生活支援センター
和田 勝弘	上野法律ビジネス専門学校	副校長
佐々木 茂	上野法律ビジネス専門学校	教務課
秋庭 裕史	上野法律ビジネス専門学校	教務課
恩田 陽子	上野法律ビジネス専門学校	教務課
工藤 正剛	上野法律ビジネス専門学校	教務課

2. 委員会次第

- (1) 開会・委員長挨拶
- (2) 委員紹介
- (2) 学校関係者評価委員会の趣旨・目的等の説明
- (3) 令和 4 年度本校取組・自己評価等の結果報告及び質疑応答
- (4) 令和 5 年度本校取組について質疑応答
- (5) 閉会

3. 内容

副校長和田勝弘より、開会挨拶の後、教務課佐々木茂より委員の紹介・委員会の趣旨・目的等の説明を行った後、令和4年度自己評価等の結果を、教務課佐々木茂より、各評価項目について報告を行った。その後、当該報告に基づいて、関係者委員の皆様と質疑応答を行い、意見提言を受けた。

(1) 教育理念・教育目標

5つの評価項目とも全て最高評価を付けた。令和4年度は保護者の人数制限をしたうえで入学式・卒業式を行い、学生・保護者とも当校の理念・教育目標を伝えることができた。また、学生には学生ハンドブックにより更に深く理解させることができている。また、今年度は人数制限なしで入学式及び保護者会を行っている。

(2) 学校運営

職員間の連絡システムは構築することができた。また、高校がデジタル化をとりいれてきており当校もデジタル化を進めるべく計画中である。

評価委員より大学生に比べ専門学生のデジタル化におけるスキルが低い指摘があ専門学校でもデジタル化に対応した授業の構築の提言をいただいた。

(3) 教育活動

コロナ禍にあってもWEBで職業実践に関する教員の研修は行うことができた。また昨年度指摘を受けた非常勤講師との連携は密に打ち合わせ等を行うことができた。卒業生・保護者に関するアンケートは引き続き行っている。

(4) 学修成果

就職率は昨年度より1ポイント上がり99%であった。留学生に関しては大手のホテル等に就職することができ、職業実践専門課程の成果がでてきていると思われる

昨年の指摘である離職について過去3年間の民間企業に就職した卒業生について調査した。総じて離職は少ない傾向であったが、離職の理由としては公務員希望であった学生が民間企業に就職した場合に希望とのギャップにより退職した卒業生が多い。ついで企業内での人間関係に悩み退職した卒業生が理由としては多くなっている。また、仕事で失敗すると誰にも相談せずひとりで抱え込んでしまうケースも多い。

資格については日商簿記3級で合格率100%を達成することができ、評価委員より何度か転職を繰り返したが、日商簿記3級を保有していたのは役に立った。デジタル教育は進めてほしいとの提言をいただいた。

また、評価委員よりグローバル化科学技術のイベントを実施したが今年度も実施予定でありぜひ参加してほしい提言をいただいた。

(5) 学生支援

コロナによる出席停止の制度、濃厚接触者の制度も学内で周知されクラス内でコロナ罹患者がでてでも混乱なく授業を進められた。また、退学については精神的に弱い学生に対しての対応が課題であるが、評価委員より学校医との連携により医学的アプローチの提言を受けた。来年度までの研究課題としたい。

(6) 教育環境

法令に従い必要な施設設備の点検・修理修繕等を行っている。また、追加した「4. 学内の整理整頓清掃に関する定期的なチェックが行われているか」については、当校では徹底している。

(7) 学生募集

新型コロナウイルス感染症の規制が緩和されているため、高校訪問等を再開している。また新たな情報提供ツールとして TikTok 等の運用を開始した。高校生のニーズを引き出せるように運用していきたい。

(8) 財務

少子化による日本人学生の減少傾向は令和 4 年度も同様である。今後は留学生の入学増加を見込んだ定員増加や、学費の値上げ等を行う予定であり財務基盤は安定している。

(9) 法令遵守

4つの項目すべて昨年度と変わらず、最高評価にしている。

(10) 社会貢献・地域貢献

ボランティアに関しては広く告知し、学生もだいたい参加している。また総合ビジネス学科の『地域研究』という授業では、企業等の外部とも接触しSDGsをテーマにした地域活性化について取り組んだ。評価委員からは今年度は酒買地蔵のお祭りは復活になり、当校の留学生の参加や、中学生なども参加予定で販売のお手伝い、アート展覧会などを行いたいという声が上がっている。また、よ市でチャレンジスペースを用意した。ぜひ参加してほしい。今の若い人は集まりに参加したがる。留学生の活躍に期待したいとの提言をいただいた。

(11) 国際交流

令和 4 年度は今までの留学生と日本人学生との交流を通じ、日本語能力の上達、日本文化への理解、日本のビジネスルールへの対応等を通じ留学生の就職状況は良かったといえる。評価委員より外国人は自我が強く意思疎通が上手くいかないところがある。文化

が根本的に違うので来日前に日本文化の理解があればいいとの提言をいただいた。

当校も留学生は課題が多い。日本字との共生は文化の違いもあり難しいと感じる場面もあると回答した。

最後に公務員系学科の状況を発表した。公務員試験は 昨年度、一次試験、二次試験ともに 90%以上と高い実績だった。この実績は維持していきたい。量的には限りなく 100%に近づけ、質的には第一志望に採用されるよう導いていきたい。離職の理由にもあったが民間に流れないように学生の満足度を高めていきたい。教育内容、教務内容をいかに実現していくか。一つひとつの授業を確実に実施する。学生との間にいかに信頼関係を築くかも大事である。

4. まとめ

令和 4 年度は職業実践専門課程認可から 3 年経過し、その成果がではじめた年度であった。今後も岩手の専門学校として地元役に役立つ視点、国際交流の視点等を大切に、今後も地域社会や企業・団体等との連携を図りながら、変化する社会に対応できる人物の育成を行う専門学校として発展ができるように、教職員全員で協力して努めていくことを確認して閉会した。

以上